

令和7年度学校自己評価システムシート (埼玉県立春日部高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---------------------------------------------

重点目標	1 個別最適化学習・・・授業の個別最適化を目指して「わかる授業」を実践する。 2 キャリア教育・・・自立した社会人となるように、規範意識と自己管理能力を育成する。 3 安心安全・・・生徒一人ひとりの基本的な生活習慣を身に付けさせ、安心安全な教育環境を確立する。 4 情報発信・・・学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価							
年度目標				年度評価(1月15日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】落ち着いた学習環境の中で授業に取り組む生徒が多い一方、入学者増により学習面で個別の支援が必要とされる生徒の増加が見込まれる。</p> <p>【課題】生徒の学習状況を踏まえ、学習保障とわかる授業に向けた授業研究が必要である。また増加している外国籍生徒への日本語支援を含め、「個別最適化学習」に向けた取組が必要である。</p>	<p>○生徒の実態に応じたわかる授業を展開し、興味関心や意欲を喚起する。</p> <p>○外部指導者等との連携を密にして、多様な生徒の実態をふまえ支援していく。</p>	<p>○教員間での授業見学や研修等をふまえた授業改善を進める。</p> <p>○4年間を通した「総合的な探究の時間」の指導計画により、自己理解から社会とのつながりへの探究を行う。</p> <p>○多文化共生の観点からのカリキュラムを検討する。</p> <p>○個別最適化を促進する指導(習熟度別、少人数指導、TTなど)の充実。</p> <p>○外部指導者(日本語支援員、学習サポーター)による個に応じた支援の充実。</p>	<p>○学習への取り組み状況が授業アンケート等で改善が図れたか。</p> <p>○総発表会で探究の成果を示せたか。</p> <p>○多文化共生の観点を踏まえたカリキュラムが作成できたか。</p> <p>○生徒の授業に対する取り組み姿勢の変容が、アンケート結果や成績不振科目の減少に反映されたか。</p>	<p>○年次研修者による授業研修を実施。授業アンケートではわかりやすさが4段階で3.61、昨年度より0.03上昇した。</p> <p>○2月12日に実施した総発表会では各学年とも内容・表現力の素晴らしい発表を行うことができた。(3/9現在)</p> <p>○多文化共生の観点を踏まえたカリキュラムについて検討を始めた。</p> <p>○授業アンケートでは授業の工夫が4段階で3.69、昨年度より0.05上昇した。主体的に取り組んだという回答が3.60と概ねよく取り組んでいた。在籍生徒数は増えたが欠点の数も昨年度より減少した。</p>	A	<p>○授業評価アンケートでは昨年度より高い満足度を得られた。引き続き「わかる授業」の取組を継続する。</p> <p>○多文化共生の観点を踏まえたカリキュラムについて引き続き検討を重ねていく。</p> <p>○学習サポーターの有効活用や日本語支援員との連携など、今後も「個別最適化学習」に対する組織的な取組を行っていく。</p>
2	<p>【現状】今年度分掌の組織整備を行い、進路決定に向けた取組や適切なサポートを行っている。</p> <p>【課題】適切な職業観・勤労観を育て、自己実現に向けたより良い進路選択ができるよう指導していく必要がある。特別な支援を必要とする生徒への支援の充実も図る必要がある。</p>	<p>○個々の生徒の状況に応じて、自己決定力を身に付けさせ、より良い進路決定に導くよう支援していく。</p>	<p>○進路講演会、ソーシャルスキルトレーニングの実施。</p> <p>○「総合的な探究の時間」で社会での在り方生き方を学ぶ。</p> <p>○昨年度より作成した「進路の手引き」を活用し、4年生の就職希望者の就職率80%以上を目指す。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターとの連携を図る。</p>	<p>○希望の進路実現が図れたか。</p> <p>○進路未決定者の削減が図れたか。</p>	<p>○今年度も定時制職員全員で進路指導に関わり、生徒の進路実現に努めた。現時点での就職内定率は90%と昨年度と同様、引き続き未決定者への指導を行っている。全体での進路未決定者は20%ほどであり、昨年度より改善した。</p>	A	<p>○次年度は進学指導にもさらに力を入れつつ、定時制職員全員で進路指導に関わり、生徒の進路実現に努める。</p>
3	<p>【現状】本校には、不登校経験者、高校中途退学者、健康上の要配慮者、外国籍生徒など、さまざまな生徒が在籍しており、個々の実態に応じた指導を実践している。</p> <p>【課題】多様な生徒たちが、基本的な生活習慣を身に付け、自律する力をつけて心身ともに安定した高校生活に送れるよう支援する必要がある。</p>	<p>○学校不適応や学業不振による転学、中途退学を減少させる。</p> <p>○遅刻、欠席、早退を減らし、出席状況を改善し、登校する生活習慣の確立を図る。</p>	<p>○個々の生徒に関する情報共有を緊密に行う。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、教職員との情報共有を行う。</p> <p>○福祉機関との連携を図る。</p> <p>○中学校との情報共有・連携を図る。</p> <p>○登下校時の声掛け指導による生徒把握を行う。</p> <p>○校内巡回指導による見守り。</p> <p>○出席等状況の把握と家庭との連携を密にする。</p>	<p>○学業不振による転学等の進路変更、中途退学者の割合が前年度に比べて減少したか。</p> <p>○生徒の登校状況(欠席、遅刻、早退)が改善したか。</p>	<p>○隔月実施の教育相談委員会にとどまらず日常的に生徒情報共有がなされている。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる面談等を行い担任を中心に指導しているが、問題を抱えた生徒が多く、転退学者率は2学期末時点で7%と昨年度の2倍となってしまった。</p> <p>○毎日登下校時に声掛け指導を行ったり校内巡回指導による見守り活動を行ったりしたが、1年生を中心に長期欠席者・体調不良者が多かったため、2学期までの一人当たりの遅刻数は昨年度から改善したが、欠席数・早退数は増加してしまった。</p>	B	<p>○今後も困難な状況を抱えた生徒が多数入学してこることが予想されることから、きめ細かな生徒指導を行い、転退学者の減少に努める。</p> <p>○今後も家庭連絡や家庭訪問などきめ細かな指導を実施するとともに、生徒が安心して登校できるような学校づくりを進めていく。</p>
4	<p>【現状】本校定時制の「学びなおしの場」としてのイメージ、特色が定着しつつある。</p> <p>【課題】本校の教育活動を外部に積極的にPRし、学びなおしを目指す生徒の進路決定先として選ばれる学校づくりを目指す。</p>	<p>○中学校、学習支援施設、児童相談所等の各機関との連携を充実させ、本校定時制の魅力発信していく。</p>	<p>○今年度より新たに1学期から延べ4回学校説明会を行う。</p> <p>○個別の学校見学を積極的に受け入れ例年の平均30名を上回るよう実施する。</p> <p>○本校に足を向けさせるような情報発信をホームページやSNSで行う。</p>	<p>○本校定時制の志願者のうち、直接来校し教育内容を理解した生徒の割合が増えたか。</p>	<p>○学校説明会では生徒による説明が好評であり、参加者はこれまで97組で昨年度を上回った。個別の見学会も昨年度と同程度である。12月進路希望調査は昨年の0.46倍から0.48倍とわずかながら増加しており、本校定時制の特色と魅力が伝わっている。志願者のうち直接来校したのは90.6%と昨年度の89.9%より上昇した。(3/9現在)</p>	A	<p>○昨年度から始めたSNSでの情報発信を進め、本校定時制の魅力をより多くの方に伝えていく。</p>

学校関係者評価	
実施日	令和8年1月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の生徒はかなりの割合で在籍しているようで、先生方の苦勞を窺い知ることができた。 ・日本語のレベルは様々だと思うが、カリキュラム上でも対応を検討していただきたい。 ・引き続き「わかる授業」の取組を継続していただきたい。 ・外部人材やポケットの活用など、様々な学習歴の生徒に対応していただいていることが分かった。 ・他の定時制高校では就職した後の定着率が課題だと聞いている。定着率を上げるためにも金融リテラシー教育やコミュニケーション能力の向上など、社会生活を送るためのスキルの向上も指導していただきたい。 ・不登校経験のある生徒が多く在籍しているとのことなので、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどを活用し引き続き不登校生徒への支援をお願いしたい。 ・十数年前には駅前で車座になって飲食していた生徒もいたが、指導のおかげで現在は見かけなくなった。 ・直接話すと素直でいい生徒たちである。引き続き指導をしていただき、地域との共存をお願いしたい。 ・学校に来れば環境、友人、教員、授業があり、外部人材も関わり楽しい学校生活を送れるということがよく分かった。 ・「学びなおしの場」を文字どおり実践されていて素晴らしい。 	